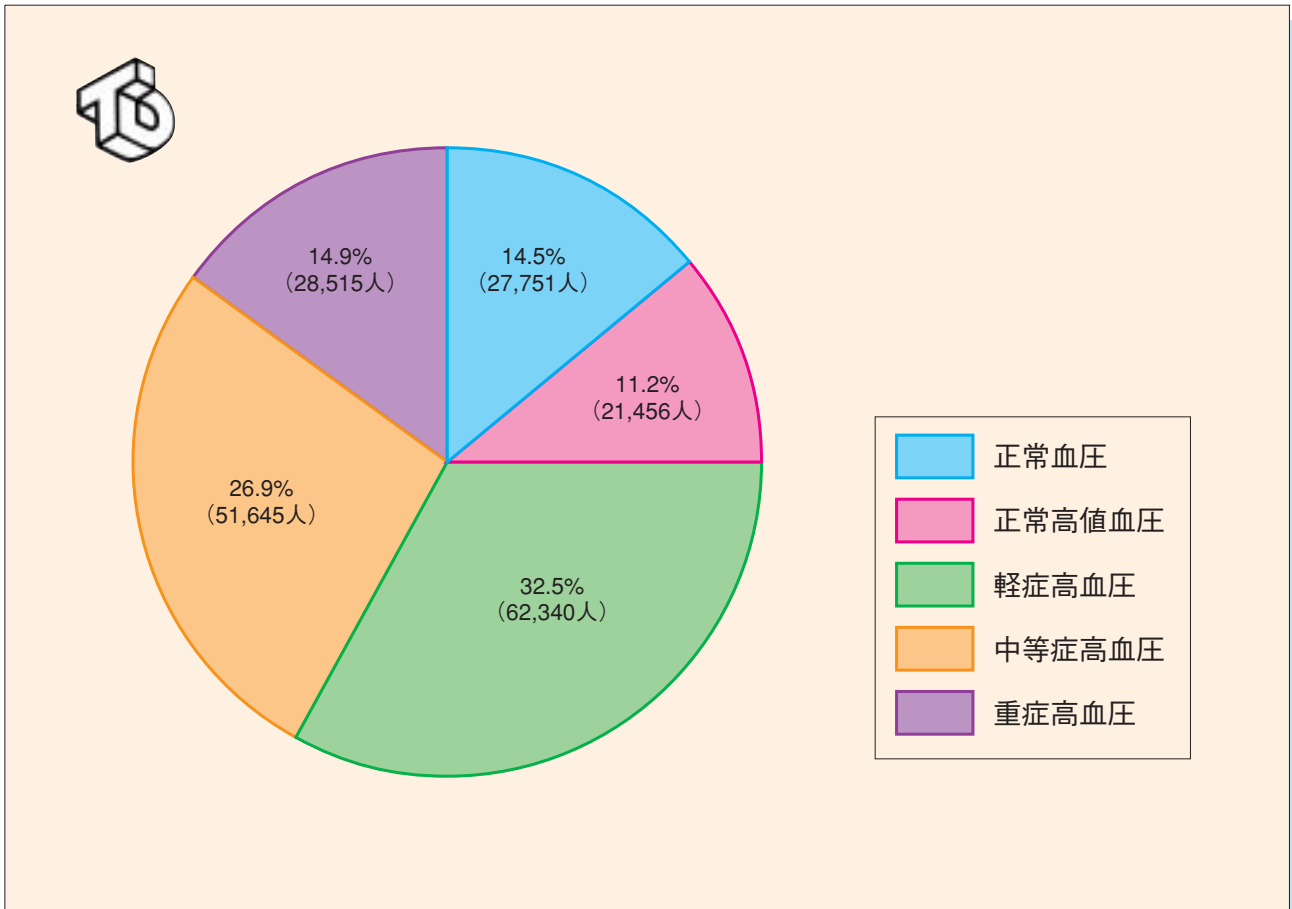


(2) 高血圧学会基準による分類 (図表26)



分類	透析前収縮期血圧		透析前拡張期血圧		患者数	(%)
至適血圧	<120	かつ	<80		13,129	(6.8)
正常血圧	<130	かつ	<85		27,751	(14.5)
正常高値血圧	130 ~ 139	または	85 ~ 89		21,456	(11.2)
軽症高血圧	140 ~ 159	または	90 ~ 99		62,340	(32.5)
中等症高血圧	160 ~ 179	または	100 ~ 109		51,645	(26.9)
重症高血圧	≥180	または	≥110		28,515	(14.9)
収縮期高血圧	≥140	かつ	<90		100,362	(52.4)

解説

透析前血圧を2004年の日本高血圧学会発行の高血圧治療ガイドラインによる、血圧値の分類に準拠して分類した。収縮期血圧130未満かつ拡張期血圧85未満の正常血圧は全体の14.5%を占め、全体の6.8%が至適血圧のレベルにある。一方、収縮期血圧180mmHg以上または拡張期血圧110mmHg以上の重症高血圧は14.9%を占める。全体の52.4%が拡張期血圧が90mmHg未満の収縮期高血圧である。